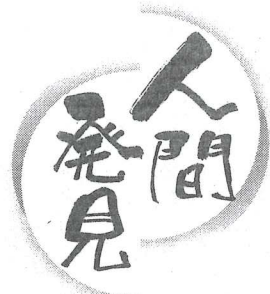


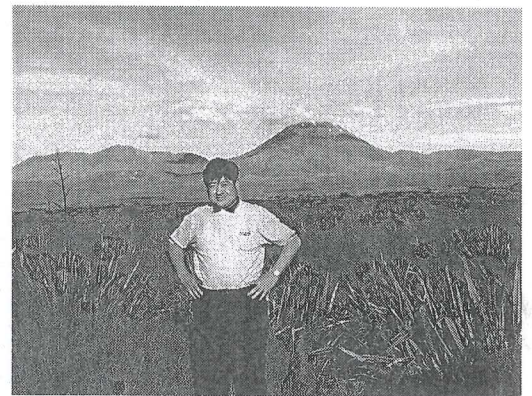
わたなべ 渡辺
とよひろ 豊博さん

都留文科大学教授



渡辺さんは3月末にニュージーランドのトンガリロ国立公園を訪問する。3度目となるが、ナウルホエ山(2291m)は富士山のようなコニーデ型の美しい山で、世界初の自然遺産と文化遺産の世界複合遺産である。

大学では、文学部社会科学科で富士山学を体系的に講義しています。水の山であり、荒ぶる山、神の山である富士山とは何か、その価値や多様性について文化的、歴史的、宗教的、あるいは経済、環境、観光、産業などの側面から重層的に解説しています。一つの学科ができるほどです。



ニュージーランドのトンガリロ国立公園の仕組みが大きなヒントに

文化・歴史・経済…山の多様な価値を講義

管理不十分「無秩序で世界一危険」に

総量規制したNZ・トンガリロに学ぶ

国が大きな視点で一元管理していることで、どの国もそうです。日本だけが、富士山を県が現実的に管理しているのです。

トンガリロ国立公園の世界遺産のバッファゾーン(緩衝区域)に区域指定されているのは約8万畝です。富士山は約7万畝でほぼ似ています。1990年に世界自然遺産とな

保護省)です。この8万畝の責任者です。国立公園の中には、スキー場、ゴルフ場、モーター、有名ホテルなど私企業もありますが、モーターを建て替えたい、道路を広げたい、スキー場を大きくしたいという案件に対して、すべてDOCが申請に対応します。富士山であれば、環境省や県、市町村が個別に保全計画を策定して担当部署ごとに対応しており、バラバラな状態が現実の姿です。

公園の仕組みを富士山に置き換えられないかと考える。トンガリロ国立公園は年間120万人が訪れ、30万人が登る。ゴミ一つなく、し尿の問題もトイレコンポストをへりで運び出しへりポートにし尿処理場があり、へりは緊急用へりとなる。富士山は周辺に3千万人の観光客、5合目に240万人、山頂に30万人と世界最大の山岳観光地です。レンジャー(自然保護官)が230人いるトンガリロ国立公園に対し富士山は3人です。日本は責任者がいません。保全の仕組みができておらず無秩序で世界一番危険な山、それが富士山です。トンガリロ国立公園は、1日に3千人しか入れません。入山料、ピークカット、総量規制があり、法律を破る者は厳しく罰せられます。

山と比較した環境政策のグローバルスタンダード(世界標準)です。これを学ぶ機会があり大いに参考になりました。

このマウントレーニアと同様、富士山と姉妹山提携をしているナウルホエ山はニュージーランドの北島にあり、オークランドから6時間くらいで行けます。私がこれらの国立公園を訪れて思うのは、

り、3年の歳月をかけ苦労して文化遺産となり世界で初めて世界複合遺産となりました。先住民(マオリ族)の聖なる山として文化的・宗教的に重要な山で、実は日本が自然遺産ではなく文化遺産で登録しようと試みる時の大きなヒントになりました。

開発行為や公園保護に関して一元管理しているのがDOC(自然

富士と共に生きていく

③

元管理しているのがDOC(自然

渡辺さんは、トンガリロ国立

(聞き手は編集委員 工藤憲雄)